

新しい学習指導要領において期待される学び

國學院大學 教授

田村 学

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

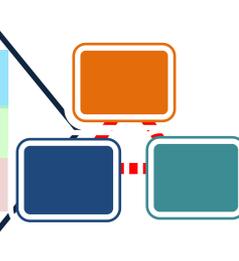
生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



※高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

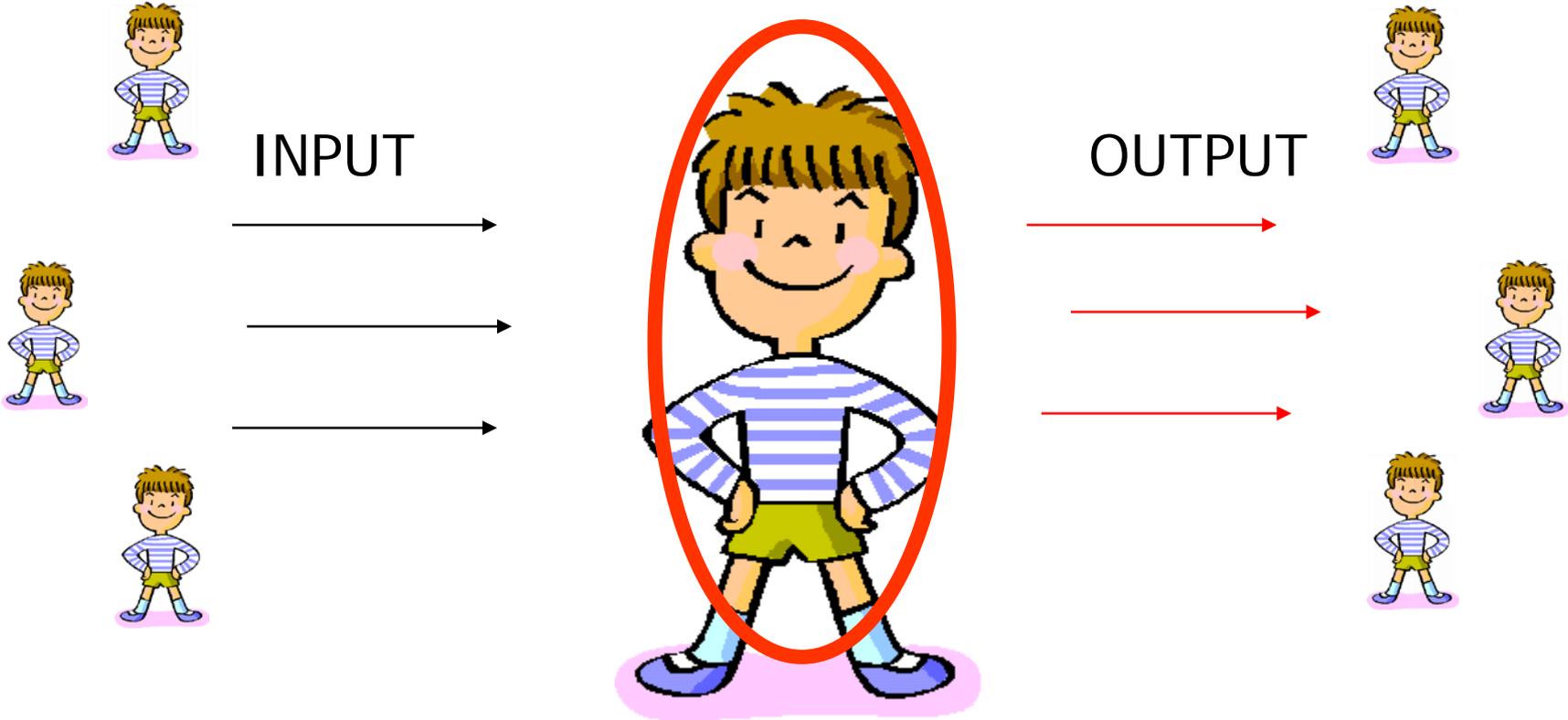
「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等



「課題設定」

- ・問題状況への違和感
- ・理想状況への憧れ

「見通し」

- ・プロセスイメージ
- ・ゴールイメージ

問いの顕在化

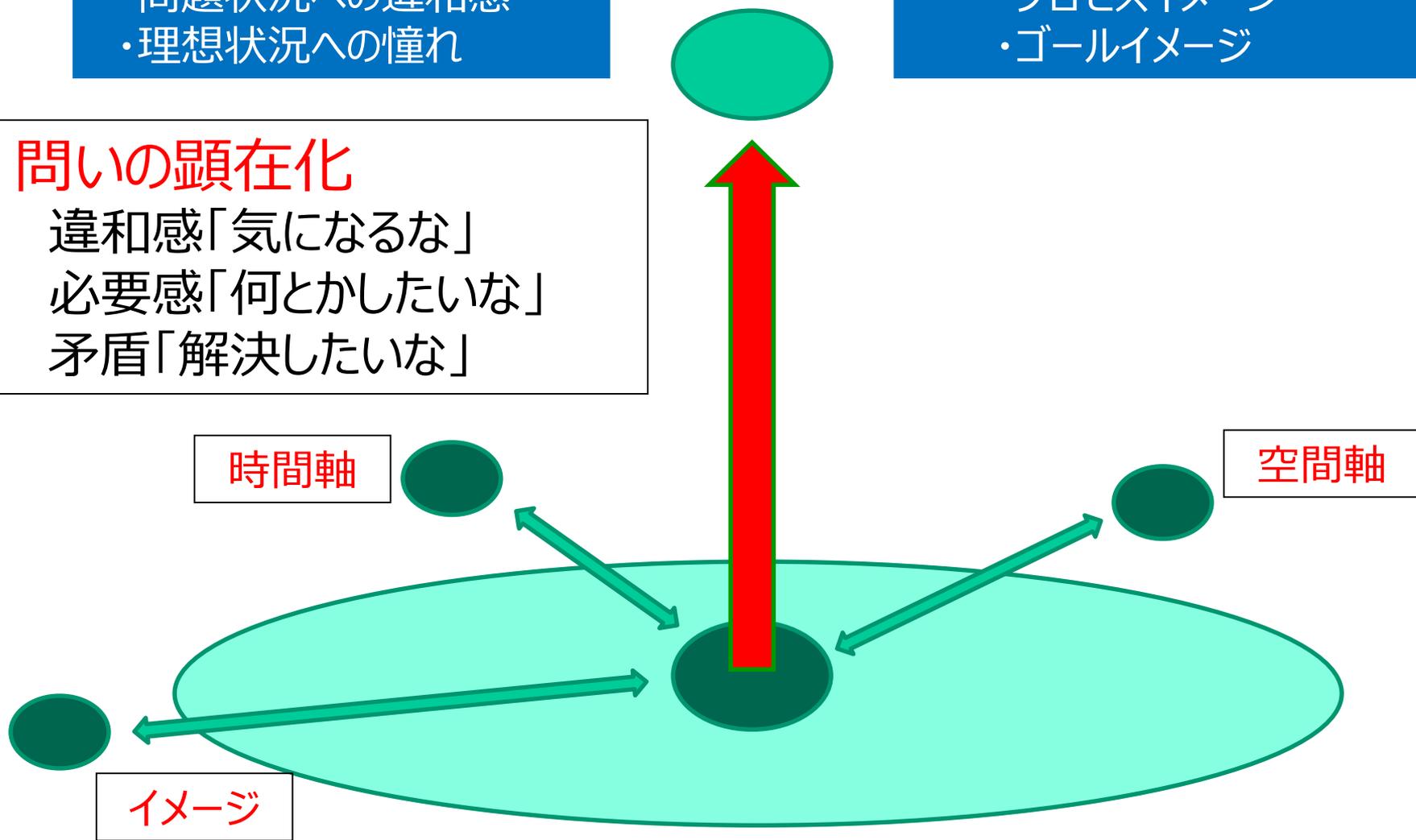
違和感「気になるな」
必要感「何とかしたいな」
矛盾「解決したいな」

時間軸

空間軸

イメージ

身に迫った、切実感のある課題を設定する



「あなたは一人じゃない、あなたの後には、未来をたくした人がいる」

私は、亡くなった人の思いがあると思う。自分のぶんまで生きてほしいと願っていると思う。

くじけても助けてくれる明日への言葉って感じがするよ。

戦争が二度と起きてはほしくないって感じがするな。

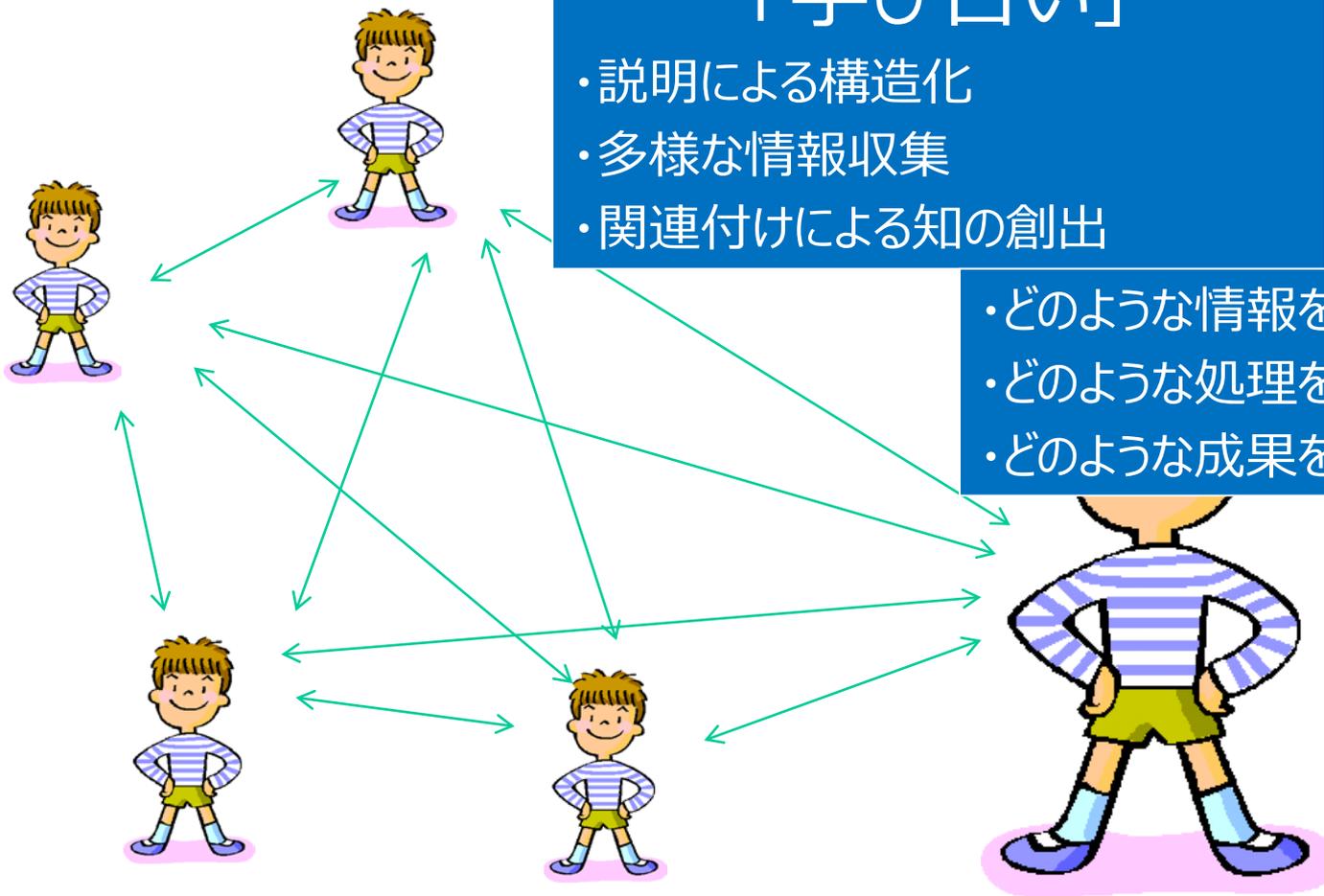
お母さんに守られていて無傷だった。お母さんが子どもに未来を託したんだと思う。

原爆直後に亡くなった人もいる。放射能で亡くなった人もいる。戦争が二度と起きないように、そうした多くの人々の思いが、明日の未来に向けて僕たちに託されているんじゃないかな。

「学び合い」

- ・説明による構造化
- ・多様な情報収集
- ・関連付けによる知の創出

- ・どのような情報を持っているか
- ・どのような処理を期待するか
- ・どのような成果を願うか



- 友達からの情報受信 (INPUT)
- 友達に向けての情報発信 (OUTPUT)
- 自分の中での情報の再構成 (PROCESS)



「振り返り」

- ・事実の確認
- ・関係性や一般化の生成
- ・自己変容への気付き



授業改善のポイント

Point 1

○課題を設定する

- ・問題状況に対する違和感
- ・理想状況に対する憧れ など

○見通しを持つ

- ・学習の過程への見通し
- ・学習の到達点への見通し など

Point 2

○音声言語で学び合う

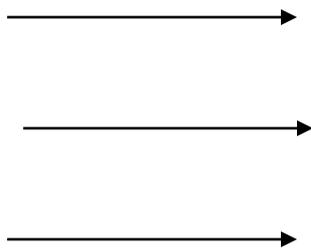
- ・どのような情報を持っているか
- ・どのような処理を期待するか
- ・どのような成果を願うか など

Point 3

○文字言語で振り返る

- ・事実の確認
- ・関係性や一般化の生成
- ・自己変容への気付き など

INPUT



OUTPUT



手応え

- ・充実感
- ・達成感
- ・自己有能感
- ・一体感





■ 学習活動



- 好奇心
- 自立的欲求
- 向社会的欲求



- 充実感
- 達成感
- 自己有能感
- 一体感

資質・能力の育成→積み重ね・繰り返し